

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

3つの基本方針  
 (1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和元年度の事業実績		令和元年度の目標達成度		令和2年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
1 家庭へ向けた取り組み	1	10	(1)ブックスタートの推進	子育て支援政策課	ブックスタート事業	単独型子育て支援センター等を通じて、絵本などが入ったブックスタートバックをプレゼントするとともに、読み聞かせや本の選び方をアドバイスする。	対象者:10,068人 ブックスタートバック引換者:6,226人 引換率:61.8%	B	単独型子育て支援センターにてブックスタートバックの引き換えを実施するとともに、引き換えができなかった者に保育園を通してブックスタートバックを配布した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子育て支援センターが閉室していた期間があり、引き換え率が下がったもの。	B	引換率65%を目標とする。	
	2	11	(2)「子どもといっしょに読書タイム」の推進	資料サービス課	「子どもといっしょに読書タイム」の推進	保護者に読書の意義や大切さを伝えるとともに、家庭で実践してほしい働きかけを提案し、呼びかけを行う。	「すくすく読み聞かせダイアリー」の配布 「とよ丸どくしょてちょう(幼児向け)」の発行 各図書館での子育て世代・シニア世代対象の読み聞かせ講座の開催	A B A	市内各図書館の窓口及び、あかちゃんおはなし会等のイベントでの配布とともに、今年度は、市内各公立保育園に3,073部を配布した。 家庭での読書を記録し、子どもの読書や成長の記録に役立ててもらうため、「とよ丸どくしょてちょう(幼児向け)」を作成し、32,000部発行することができた。 実施図書館を6館(中央、北浦和、大宮、大宮西部、岩槻、宮原)に拡充して、7回開催することができた。	B A A	「子どもといっしょに読書タイム」推進に役立てるため、配布を継続する。 記者発表及びさいたま市ホームページに掲載する。また、各図書館で配布をする。 各図書館で子育て世代・シニア世代を対象に読み聞かせ講座を開催する。	
2 地域での取り組み	3	12	(1)地域の子ども読書活動情報の紹介	子育て支援政策課	「さいたま子育てWEB」等による情報提供	読み聞かせ、おはなし会などの活動について、「あそび場ガイドブック(旧子育てきっかけ応援ブック)」やホームページ「さいたま子育てWEB」などで情報を提供する。	「あそび場ガイドブック」(旧子育てきっかけ応援ブック)の発行 「さいたま子育てWEB」の運用	B B	予定どおり30,000部作成し、配布したため。 WEBトップページの閲覧数1,227,412PVを達成したため。	B B	引き続き、必要数を作成し、配布する。 引き続き、昨年とほぼ同数の閲覧数を目指して事業を継続する。	
	4	12	(2)公民館での子ども読書活動の推進	生涯学習総合センター	公民館文庫、おはなし会等の実施	※別シートを御確認ください						
	5	13	(3)児童センターでの子ども読書活動の推進	青少年育成課	児童センターにおける読書環境の整備	※別シートを御確認ください						
	6	13	(4)うらわ美術館での子ども読書活動の推進	うらわ美術館	「本の出張授業」の実施	美術館の職員がしかけ絵本や造形的に芸術性の高い本を小学校へ持参し、鑑賞学習を行う。	本の出張授業	B	前年度平成30年度(25校90クラス2,760人)と比べ、令和元年度(24校82クラス5,711人)と下回ったが、臨時休校で実施できなかった2校を除いて、依頼のあった学校に対して100%実施したため。	B	昨年とほぼ同数の参加数を目指し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学校の状況に応じて事業を継続する。尚、臨時休校の延長や授業時数確保のため、美術館職員が学校へ赴くことが困難な際には、教職員が授業を行えるよう、本の貸出しを推奨するとともに、授業実施のための参考動画やシナリオ等を作成し対応する。	
7.1	14	(1)読書環境の整備・充実	資料サービス課	図書館の整備・充実	乳幼児、小・中・高校生を対象に、発達段階に応じた収書、調べ学習に対応できる蔵書構成に努める。	児童書の見計らい選定会議の定期的な実施	B	各図書館の児童・地域担当職員を集め、児童書の見計らい選定会議を毎週金曜日、年間では48回実施し、子どもの成長に合わせた適切な資料を収集するよう努めた。	B	引き続き、定期的に児童書の見計らい選定会議を実施し、精選した児童書収集を行う。		
7.2			管理課	さいたま市図書館施設リフレッシュ計画	図書館施設について、施設の機能を適切に維持し、長寿命化を図るとともに、利用者の安全・安心を確保するため、適切な維持管理や改修工事を計画的に実施する。	図書館では、「さいたま市図書館施設リフレッシュ計画」に基づき、施設改修を1館行った。	B	工事を予定どおり完了することができた。	B	引き続き、リフレッシュ計画に基づき、老朽化した図書館の改修工事等を進めていく。		
8	15	(2)本や図書館に親しむイベントの開催	資料サービス課	児童向けイベントの実施	読書や図書館の利用について、子ども達の興味や関心を高めるイベントを開催する。また、大人を対象に、子どもへの読書支援を目的とした講座を開催する。	中・高校生を対象にした図書館ボランティア「さいたま・ライブラリ・サポーターズ」(リブサポ)を11館(中央、大宮西部、北、大宮、春野、与野、桜、北浦和、武蔵浦和、東浦和、岩槻)での実施	A	11館(中央、大宮西部、北、大宮、春野、与野、桜、北浦和、武蔵浦和、東浦和、岩槻)で開催し、昨年の参加延べ人数153人から171人に増加し、中・高校生に図書館への来館を促す働きかけを行うことができた。	B	全館で1,289回イベントが開催され、25,012人が参加した。昨年度と比べ開催数、参加人数ともに減少した。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をしつつ、開催方法等を見直します。
						児童・生徒向けの行事開催	B	全館で40回イベントが開催され、800人が参加した。昨年度と比べ45人参加者を増やして実施することができた。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をしつつ、開催方法等を見直します。		
						読み聞かせや本に関する講座開催(一般対象)	A	全館で40回イベントが開催され、800人が参加した。昨年度と比べ45人参加者を増やして実施することができた。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をしつつ、開催方法等を見直します。		
9	15	(3)本や図書館に関する情報発信の充実	資料サービス課	児童向け刊行物の発行	ブックリストや情報誌を作成し、各図書館で配布する。市立小・中・高等学校等へ情報提供する。	「本は王さま」の作成	B	記者発表を行い、子ども読書の日を記念して「本は王さま2019」を4,200部発行し、図書館ホームページに掲載した。また、「本は王さま2020」の作成を行った。毎年新しく出版される児童書の中から図書館員が選ぶおすすめの本を紹介することができる。	B	「本は王さま2021」の編集・作成を行う。		
						「とよ丸しんぶん」(年4回)発行	B	年4回(4月、7月、10月、1月)各2,000部発行し図書館で配布及び図書館ホームページに掲載した。また、市立小学校への配布も行った。	B	年4回の作成・配布を継続して行う。		
						「はび」(年4回)発行	B	年4回(4月、7月、10月、1月)各2,000部発行し図書館で配布及び図書館ホームページに掲載した。また、市立中学・高等学校、市内の県立高等学校への配布も行った。	B	年4回の作成・配布を継続して行う。		

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

3つの基本方針  
 (1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和元年度の事業実績		令和元年度の目標達成度		令和2年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
3 図書館での取組	10	15	(4)さいたま市ゆかりの児童書の収集と紹介	資料サービス課	「さいたまゆかり」コーナーの充実	石井桃子と瀬田貞二を中心に、さいたま市ゆかりの児童文学者の著作や関連資料の収集、展示、講演会や紹介を行う。	さいたま市ゆかりの児童文学者記念講演会の開催	A	市ゆかりのある児童文学者・瀬田貞二氏の没後40年に際し、瀬田貞二について広く市民に知ってもらうため、斎藤博夫氏による講演会「さいたま市ゆかりの児童文学者記念講演会 瀬田貞二のまなざし」を行った。73人申込みあり、60名参加した。	C	単年事業として、終了。	
							小冊子「さいたま市ゆかりの児童文学者 瀬田貞二」の発行	A	200部発行し、「さいたま市ゆかりの児童文学者記念講演会」の会場配布した。残部を中央図書館ゆかりの資料コーナーで配布した。	C	単年事業として、終了。	
	11	16	(5)障害のある子どもへのサービスの充実	資料サービス課	バリアフリーサービス	障害のある子どもたちに、障害に応じた読書サービスを行う。	ボランティア団体による点訳絵本の作成	B	中央図書館等のボランティアグループ活動により、43冊(昨年44冊)の絵本を点訳した。	B	ボランティアグループと連携し、点訳絵本の受入れを進める。	
							特別支援学校・特別支援学級を対象とするおはなし会の実施	A	特別支援学校への訪問や図書館への招待を行い、市内図書館で合計13回(昨年度9回)、124人(同107人)に集金行事を行った。	B	学校からの依頼に応じて随時実施する。	
	12	16	(5)多文化・多言語サービスへの取組	資料サービス課	多文化・多言語サービス	日本語を母国語としない子どもへのサービスとして、児童向けの外国語資料の収集や多言語によるおはなし会を開催する。	多言語おはなし会の実施	B	中央図書館等でマルチメディアデザインを9点、LLブックを6冊収集した。	A	各館で多言語によるおはなし会を継続して行う。	
							外国語児童書の展示	B	各館で年度中に合計6回(昨年7回)、外国語絵本等の展示を行った。	B	各館で外国語児童書の展示を行う。	
	13	16	(7)学校図書館への支援の充実	北浦和図書館	学校図書館支援センター事業	小・中・高等学校及び特別支援学校、教育相談室の授業や取組を図書の側面から支援する。	学校図書館向け図書の団体貸出の実施	B	中央図書館等でマルチメディアデザインを9点、LLブックを6冊収集した。	A	各館で多言語によるおはなし会を継続して行う。	
							学校図書館からのレファレンス対応	B	各図書館で合計9回(昨年度8回)実施し、322人(同332人)が参加した。	B	各館で外国語児童書の展示を行う。	
	14.1	16	(8)学校との連携の推進	資料サービス課	学校との連携推進	学校と連携して児童生徒の読書活動を推進する取組を行う。	学校図書館等でのマルチメディアデザインを9点、LLブックを6冊収集した。	B	各図書館で合計9回(昨年度8回)実施し、322人(同332人)が参加した。	B	外国語児童書の収集を行う。	
							学校図書館向け図書の団体貸出の実施	B	小・中・中等教育・高等学校、特別支援学校、教育相談室へ34,486点の団体貸出を実施した。	B	小・中・中等教育・高等学校、特別支援学校、教育相談室への団体貸出を継続して実施する。	
							学校図書館からのレファレンス対応	B	申込みのあった10件に回答した。	B	申込みのあったレファレンスに対する回答を継続して行う。	
学校図書館を充実させる取組							B	新たに採択された教科書に関連した資料を収集し、教育研究所ホームページなどを通じて各学校へ情報提供を行った。	B	新たに採択された教科書に関連した資料の収集を継続し、各学校へ情報提供を行う。		
14.2	16	(8)学校との連携の推進	資料サービス課	学校との連携推進	学校と連携して児童生徒の読書活動を推進する取組を行う。	読書手帳の配布	B	「とよれどくしよてちよう(1~2年生向き)」を22,000部増刷し、図書館と学校で配布。市立小学校1年生には全員配付した。また「3~6年生向きとしよれどくしよてちよう」を、図書館で配布した。	B	子どもが読書習慣を身に付ける手段の一つとして、読書手帳の利用を進めていく。		
						職場体験の受入れ	A	各図書館で職場体験学習のため、204人(昨年度147人)を受け入れた。	B	図書館を深く知り、職業体験として学ぶ機会となるよう、今後も受入れを実施する。		
						学校訪問(図書館職員によるブックトークや読み聞かせ)の実施	B	各図書館から職員が学校を訪問し、合わせて2,636人(昨年度3,419人)に本の紹介等を行った。	B	児童が本に親しみを持てるように、学校と連携して訪問事業を行う。		
15	17	(9)保育所・幼稚園との連携の推進	資料サービス課	保育所・幼稚園との連携推進	保育所や幼稚園の園児へ読み聞かせや絵本の貸出を行う。また、団体利用者カードの登録を受け付け、団体貸出を行う。	学校招待(図書館見学他)の実施	A	各図書館において図書館見学や町探検で来館した児童合わせて5,777人(昨年度5,320人)に、図書館案内や貸出し体験を行った。	B	児童が図書館に日常的に来館し、読書や調べものに利用する機会が増えるように、学校と連携していく。		
						学校招待(図書館見学他)の実施	A	各図書館において図書館見学や町探検で来館した児童合わせて5,777人(昨年度5,320人)に、図書館案内や貸出し体験を行った。	B	児童が図書館に日常的に来館し、読書や調べものに利用する機会が増えるように、学校と連携していく。		
16	17	(10)子どもの読書活動推進に関わるボランティアの支援	資料サービス課	子どもの読書活動推進に関わるボランティア支援	子どもの読書活動に関わるボランティアを支援するため、情報提供や講座の開催を行う。	身近に本がある環境を作り不読者の割合を減らすため、学級単位で利用する図書セットを作り対象の学年に対して学級数分のセットの貸出をする。	B	令和元年度は小学校45校(前年度33校)、中学校16校(前年度20校)、特別支援学校1校(前年度2校)に対して貸出を実施した。	B	引き続き、学校と調整して貸出しを行う。		
						『ボランティア向け読み聞かせブックリスト』、『続ボランティア向け読み聞かせブックリスト』の配布	B	『ボランティア向け読み聞かせブックリスト』を1,000部増刷し、各図書館で配布した。『続ボランティア向け読み聞かせブックリスト』を各図書館で配布した。	B	引き続き、読み聞かせボランティアを対象とするブックリストを配布する。		
17	17	(11)児童サービス担当職員の養成	資料サービス課	児童サービス担当職員の研修	児童サービス担当職員の育成を行うため、内部研修の実施、及び外部研修への参加を促す。	読書手帳の配布	B	各図書館において講座を開催したり、図書館職員が学校の読み聞かせボランティアを指導したりするなど、延べ31回(昨年度37回)実施し、525人(同594人)が参加した。	B	ボランティアの経験年数に見合う指導により、スキルアップが図れるように、指導的役割を担えるボランティアグループと連携しながら、支援を行う。		
						読書手帳の配布	B	各図書館において講座を開催したり、図書館職員が学校の読み聞かせボランティアを指導したりするなど、延べ31回(昨年度37回)実施し、525人(同594人)が参加した。	B	ボランティアの経験年数に見合う指導により、スキルアップが図れるように、指導的役割を担えるボランティアグループと連携しながら、支援を行う。		
17	17	(11)児童サービス担当職員の養成	資料サービス課	児童サービス担当職員の研修	児童サービス担当職員の育成を行うため、内部研修の実施、及び外部研修への参加を促す。	図書ボランティア等の活動を希望する方への情報提供	B	学校や公民館等へボランティア受入れ希望調査を行い、市のホームページで情報を公開した。	B	読み聞かせや図書の整理作業のボランティアを希望する方へ、活動場所を案内できるように、情報収集を行う。		
						児童サービス担当者研修会の実施	B	元年度に大田区立図書館で研修を年間4回計画し、3回開催した(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第4回は中止)。	B	経験や情報の共有を図り、各館における案内や集金行事に役立つよう、年間4回の研修会を開催する。		
17	17	(11)児童サービス担当職員の養成	資料サービス課	児童サービス担当職員の研修	児童サービス担当職員の育成を行うため、内部研修の実施、及び外部研修への参加を促す。	児童サービス担当者研修会への参加	B	各図書館から埼玉県図書館協会主催の研修会に年間5回参加した。	B	児童担当職員が基礎的な知識や技術を身に付けられるように、今後も研修会に参加する。		
						児童サービス担当者研修会への参加	B	各図書館から埼玉県図書館協会主催の研修会に年間5回参加した。	B	児童担当職員が基礎的な知識や技術を身に付けられるように、今後も研修会に参加する。		
17	17	(11)児童サービス担当職員の養成	資料サービス課	児童サービス担当職員の研修	児童サービス担当職員の育成を行うため、内部研修の実施、及び外部研修への参加を促す。	図書館員養成専門講座への参加	B	図書館から1名、日本図書館協会主催の研修会(前期・後期)に参加した。	B	指導的役割を果たせる児童担当職員を育成するため、今後も研修会に参加する。		
						図書館員養成専門講座への参加	B	図書館から1名、日本図書館協会主催の研修会(前期・後期)に参加した。	B	指導的役割を果たせる児童担当職員を育成するため、今後も研修会に参加する。		

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

3つの基本方針  
 (1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和元年度の事業実績		令和元年度の目標達成度		令和2年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
4 学校での取組	18	18	(1)学校図書館の環境整備	指導1課	学校図書館の環境整備	児童生徒の主体的な読書活動や学習を支援できるように、図書の記事、推薦図書の展示、室内レイアウト等の環境整備に努める。	各学校における学校図書館の環境整備	B	すべての市立小・中・中等教育・特別支援学校において、司書教諭と学校図書館司書の間で連携を図りながら、年間を通して利用しやすい学校図書館づくりが行われた。	B	今後も学校図書館が「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を担えるよう、司書教諭と学校図書館司書の連携を図る。	
	19	18	(2)読書習慣の形成と自主的な読書活動の活性化	指導1課	読書に関する取組の充実	児童生徒の読書への関心を高め、読書活動の推進を図る取組を行う。	・各学校における読書イベントや継続的な読書指導の工夫 ・全校一斉読書の取組の実施	B	すべての市立小・中・中等教育・特別支援学校において、「子ども読書の日」や「読書週間」に関わるイベントや各校独自の読書指導の工夫が行われた。また、99.3%の学校で全校一斉読書の取組を実施した。	B	各学校の学校図書館運営や、読書活動に関する取組を情報共有し、児童生徒のよりよい読書習慣の形成に努める。	
	20	19	(3)学校図書館を活用した授業などの学習指導の充実	指導1課	学校図書館を利活用した授業の充実	児童生徒の主体的で意欲的な学習活動を支援する。	各学校における学校図書館や図書資料を活用した授業の実施	A	3月が臨時休業となった中でも学校図書館や図書資料を活用した授業の総時数が7200時間を超え、2月までの総時数を平成30年度のデータと比較すると、2600時間ほど増加した。	B	「学校図書館資源共有ネットワーク」も活用しながら各校の図書資料の充実を図り、学校図書館を活用した学習指導の充実にも努める。	
	21	19	(4)学校図書館コンピュータの整備による機能的な学校図書館運営の支援	教育研究所	学校図書館のICT環境整備	耐用年数を経過した学校図書館コンピュータの入替を順次行うとともに、令和2年度には学校図書館コンピュータのセンターサーバの入替を行い、機能的な学校図書館運営に努める。	新設美園北小学校・美園南中学校へ学校図書館コンピュータを設置する。また、センターサーバと、つばさ小の学校図書館コンピュータについて再リースを実施する。	B	新設美園北小学校・美園南中学校へ学校図書館コンピュータを設置した。また、センターサーバと、つばさ小の学校図書館コンピュータについて再リースを実施した。	B	耐用年数を経過した市立小学校8校、中学校17校の学校図書館コンピュータの入替を行う。また、センターサーバの入替を行う。	
	22	19	(5)学校図書館ネットワークの充実	指導1課	学校図書館資源共有ネットワーク事業	学校と公共図書館、教育研究所を結ぶネットワーク便を運行する。	市立学校と公共図書館、教育相談室、教育研究所を結ぶネットワーク便の運行	B	ネットワーク便の運行回数を36回とし、年度初めから年度末まで安定した運行を行い、各学校で充実した学習活動を行うことができた。	B	ネットワーク便の安定した運行の継続に努める。	
	23	20	(6)保護者や地域のボランティアとの連携による学校図書館の充実	指導1課	学校図書館における保護者や地域との連携	保護者や地域と連携し、学校図書館の環境整備や児童生徒の読書活動の推進を図る。	各学校における学校図書館環境整備や読書活動におけるボランティアの活用	B	市立小・中・特別支援学校で、学校の実態に応じて保護者や地域のボランティアを活用した読書活動の充実を図ることができた。	B	引き続き、保護者や地域のボランティアの活用を図ることができるよう努める。	
	24	20	(7)「子ども読書の日」に関する取組の充実	指導1課	「子ども読書の日」に関する取組の充実	学校における「子ども読書の日」に関する意識を高め、取組を充実させる。	各学校における「子ども読書の日」に関わる読書イベントの実施	B	全校読書集会や読み聞かせなど、「子ども読書の日」に係る取組を、小学校では98.0%、中学校では93.1%の学校で実施した。	B	今後も、「子ども読書の日」の取組の全校実施に向け、取組の継続と充実を図る。	
	25	21	(8)市立高等学校の読書活動の推進	高校教育課	市立高等学校の読書活動の推進	生徒の読書離れの対策を市立図書館と連携して取り組んでいく	・市立高等学校、市立図書館連絡会議での意見交換 ・市立高校POPバトルの実施 ・市立図書館との交換展示の実施 ・市立図書館の利用者カードの訪問登録の実施 ・各校の特色を生かした読書推進の取組	B	連絡会議での意見交換や市立図書館との合同事業実施により、市立図書館及び他校学校図書館の状況や取組を知り、その成果をそれぞれ自校の取組に還元することができた。 また、市立高校POPバトルを各校の文化祭期間に実施したところ、投票への参加が多く見られ、高校生が高める本を目にする機会を多くの生徒に提供できた。	B	引き続き、昨年度の取組を踏襲した事業を継続する。	
5 保育園や幼稚園での取組	26.1	21	(1)絵本に親しめる環境づくり	保育課	絵本等の読み聞かせの充実	日常の保育の中に、絵本等の読み聞かせの機会を多くつくる。	毎日の保育の中で、絵本の読み聞かせを実施した。	B	日常的に絵本に親しみ、楽しむことができた。	B	絵本の読み聞かせや物語の世界を親しむとともに、児童の想像力を養い豊かな言葉の獲得につなげていく。	
	27	21	(2)保護者へ読み聞かせの大切さを発信	保育課	保護者への啓発	1日保育士体験を通して、読み聞かせの大切さや親子のかかわりの楽しさを伝える。	1日保育士体験・保育参加の中で絵本等の読み聞かせを行い、保護者にも読み聞かせの体験をしてもらった。	B	絵本を通して、家庭における親子の会話や触れ合う時間が増えた。	B	1日保育士体験・保育参加を通して保護者に絵本等の読み聞かせを体験してもらい、体験を通して子どものかかわりの楽しさを伝えていく。	
	28.1	21	(3)地域との連携推進	保育課	図書館・公民館や地域のボランティアとの連携	図書館や公民館による読み聞かせ会に参加したり、地域のお話ボランティアを保育園に招いたりして、地域との連携を図る。	図書館職員による読み聞かせ等の実施(50園)	B	ほぼ例年どりの実施園数であった。	B	昨年よりも、やや上回る園数を目指して事業を継続する。	
							地域のボランティアによる読み聞かせ等の実施(29園)	B	ほぼ例年どりの実施園数であった。	B	昨年よりも、やや上回る園数を目指して事業を継続する。	
	28.2	21	保育課	地域支援事業の充実	保育園の地域支援事業の充実を目指す。	地域子育て支援センターに來園した親子に、絵本・紙芝居の読み聞かせを実施した。	図書館での絵本の貸し出し利用	B	図書館と連携を図り、絵本等に親しむことができた。	B	引き続き、絵本等に親しむ機会を設けていく。	
						地域子育て支援センターに來園した親子が、読み聞かせを楽しみにしていた。	B	地域子育て支援センターに來園した親子が、読み聞かせを楽しみにしていた。	B	引き続き、地域子育て支援センターにて読み聞かせの時間を設け、親子ともに楽しめる時間をつくる。		

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

3つの基本方針  
 (1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読



施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和元年度の事業実績		令和元年度の目標達成度		令和2年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
	29	21	(4)保育士などの資質向上	保育課	職員研修の実施	保育士の資質向上のため、読み聞かせなどの研修会を実施する。	紙芝居をテーマにした研修会の実施(年2回)	B	研修会で学んだことを保育実践で生かすことができ、資質向上につながった。	B	引き続き、資質向上のため、研修会を年2回実施する。	
計画の進行管理	30	9	さいたま市子ども読書活動推進計画に関する事業実施状況調査	資料サービス課	さいたま市子ども読書活動推進計画に関する事業実施状況調査	調査を毎年実施し、事業の充実を図る。	「さいたま市子ども読書活動推進計画」に係る所管課の事業実施状況の調査と、さいたま市ホームページへの公開	B	各課の取組状況を取りまとめ、フィードバックすることで、現状の課題と次年度以降の目標設定に役立てることができた。	B	引き続き、「さいたま市子ども読書活動推進計画」に係る所管課の事業実施状況が確認できるよう調査を行う。	
	31	9	読書調査(市立小・中・高等学校対象)	資料サービス課	読書調査の実施	市立小・中・高等学校を対象に読書調査を実施する。	市立小・中学生を対象にした読書調査を、さいたま市学習状況調査により実施	B	昨年度に引き続き全校調査により、小・中学生の読書状況を調査した。	B	継続して調査を行う。	
							市立高校生を対象にした読書調査を図書館のアンケート調査により実施	B	昨年度に引き続き市立高等学校4校を対象に、抽出により高校生の読書状況を調査した。	B	継続して調査を行う。	